

Brookfield

実物資産 四半期レポート

パブリック・セキュリティーズ・グループ

2024年第4四半期

要旨

- インフラ企業と不動産企業はこれまでより大幅な収益成長と投資リターンを生み出す好位置にあると考えている。
- 高金利が経済成長に与える影響は今後数四半期にわたり強まる可能性があるため、大半のポートフォリオにわたりディフェンシブなポジションを維持する。
- 必要不可欠なデータ・インフラを提供する実物資産ハイイールドの発行体は、ネットワーク・インフラに対する需要の増大から恩恵を受けると見込まれる。

上場実物資産に有利な環境へと変化

2024年10-12月期に入り、上場実物資産への配分を裏付ける材料があると見ています。上場実物資産の相対パフォーマンスは、有利な環境の変化のおかげで力強く上昇しており、インフラ株式と不動産株式とともに7-9月期に市場全般を着実にアウトパフォームしました。今後の見通しについては、世界経済の基盤を成す資産を所有・運営するこれらの企業は、これまでより大幅な収益成長と投資リターンを生み出す好位置にあると考えています。

世界中の中央銀行が利下げを行っていることから、金利は低下しています。金利の正常化は、金利感応度の高いインフラ企業や不動産企業が低い資金調達コストで成長投資を行うことができ、内部収益率（IRR）と資産価格を押し上げることを意味します。加えて、上場実物資産は、その利回りが債券と比べて改善していることから、トータルリターンの観点から魅力が高まっています。この変化は既に上場実物資産に恩恵をもたらしており、今後も続くと考えています。

セクター固有の追い風は支援材料です。人工知能（AI）採用の増加および経済のデジタル化は、公益事業、エネルギー・インフラおよびデータ・インフラの構造的な成長要因です。北米における公益事業、発電所所有企業、天然ガスのバリューチェーンは、データセンターの電力需要の増大から恩恵を受けると見込まれます。

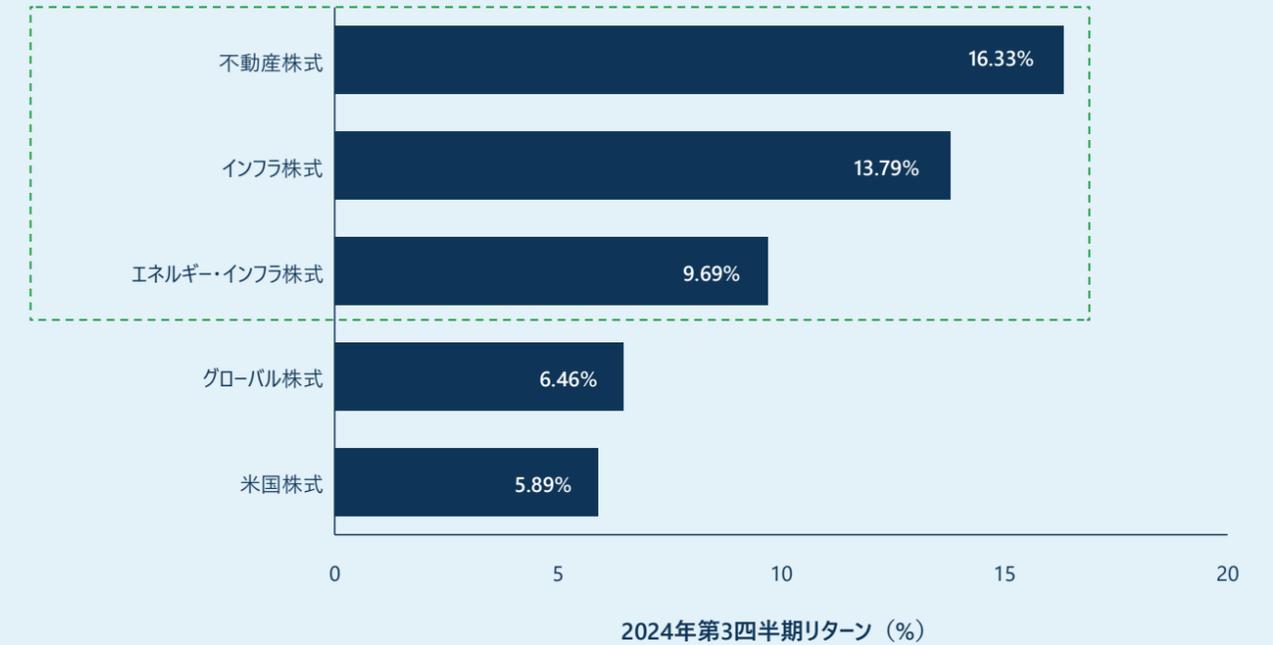
米国におけるデータセンターの電力消費は、2022年から2030年までの間に3倍になると予想されます。データ量の増加を支えるためには、通信塔や光ファイバー網の増設および既存設備の更新も必要になります。

その他の追い風として、世界的なクリーン電力への転換および脱炭素化を促進するファンダメンタルズは依然として強固で、資本コストの低下を背景に加速すると見込まれます。世界各地の政策当局および民間部門は、2050年までに炭素排出量のネットゼロ目標を達成するように連携しています。目標を達成するためには、100兆ドル近い投資によって、再生可能エネルギー生成能力を増やし、送電網の近代化を進め、エネルギー効率を向上させる必要があります。最後に、不動産の物件価値は、キャップ・レートの安定化に応じて底入れしている模様です。これは取引活動の増加に繋がり、今後の資産価値の増加と収益成長を示唆しており、不動産株式に恩恵をもたらす可能性があると考えています。

ディフェンシブなポジションには利点があります。米連邦準備制度理事会（FRB）が利下げを行っているものの、経済成長は1年半にわたる高金利の結果として、経済成長はまだ鈍化する可能性があると考えています。世界的に不透明な政治状況も依然として注目され、新政府の下で政策や規制が大きく変わる可能性があります。

経済成長鈍化の可能性と不確実性が相まって、ボラティリティが高まり、ディフェンシブ・セクターに対する需要を押し上げる可能性があります。キャッシュフローとインカムのクオリティは、通常、景気減速の環境において、成長性より魅力的になります。上場実物資産は、特に市場環境の変化に応じて最も魅力的な投資先を特定することができる経験豊富なアクティブ運用マネジャーの支援を得て、これらの特性をもたらすことができると考えています。

実物資産株式は7-9月期に市場全般をアウトパフォーム



2024年9月30日時点。出所：ブルームバーグ。米国株式はS&P 500インデックス、グローバル株式はMSCI ワールド・インデックス、グローバル不動産株式はFTSE EPRA Nareit ディベロップト・インデックス、グローバル・インフラ株式はFTSE グローバル・コア・インフラストラクチャー-50/50インデックス、エネルギー・インフラ株式はアリアン・ミッドストリーム・エネジー・インデックスを使用しています。使用しているすべてのインデックスと定義については、開示事項を参照ください。インデックスに直接投資することはできません。インデックスのパフォーマンスは例示のみを目的として記載されており、いかなる投資のパフォーマンスも予測または表示するものではありません。過去のパフォーマンスは将来の結果を示唆するものではありません。

当レポートの最後に記載のインデックスの定義を参照ください。過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。インデックスのパフォーマンスは、ブルックフィールドの投資パフォーマンスを示唆するものではありません。インデックスに直接投資することはできません。

パフォーマンス・レビュー

2024年9月30日時点（％）

| グローバル・インフラ株式 | Q3 2024 | 年初来 |
|---|---------|-------|
| FTSE グローバル・コア・インフラストラクチャー50/50インデックス | 13.79 | 16.95 |
| ダウ・ジョーンズ・ブルックフィールド・グローバル・インフラストラクチャー・インデックス | 14.38 | 13.45 |
| エネルギー・インフラ株式 | | |
| アレリアン・ミッドストリーム・エナジー・インデックス | 9.69 | 27.37 |
| アレリアン MLP インデックス | 0.72 | 18.56 |
| グローバル不動産株式 | | |
| FTSE EPRA /Nareit ディベロップト・インデックス | 16.33 | 12.64 |
| MSCI 米国 REITインデックス | 16.12 | 15.84 |
| ICE BofA 優先証券REIT 7%コンストレインド・インデックス | 13.20 | 9.41 |
| 実物資産デット | | |
| ICE BofA リアル・アセット米ドル・ハイ・イールド・カスタム・インデックス | 5.90 | 7.71 |
| ICE BofA リアル・アセット米ドル投資適格カスタム・インデックス | 6.10 | 5.85 |
| ICE BofA リアル・アセット米ドル・コーポレート&ハイ・イールド・カスタム・インデックス | 5.96 | 7.16 |
| 市場全般ベンチマーク | | |
| MSCI ワールド・インデックス | 6.46 | 19.28 |
| S&P 500インデックス | 5.89 | 22.08 |
| ブルームバーグ・グローバル総合インデックス | 6.98 | 3.60 |
| ICE BofA 米国ハイ・イールド・インデックス | 5.28 | 8.03 |

2024年9月30日時点。出所：ブルームバーグ。ブルックフィールドは、ダウ・ジョーンズ・ブルックフィールド・グローバル・インフラストラクチャー・インデックスの日々の管理に直接的に関与していません。当レポートの最後に記載のインデックスの定義を参照ください。過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。インデックスのパフォーマンスは、ブルックフィールドの投資パフォーマンスを示唆するものではありません。インデックスに直接投資することはできません。

実物資産の分散配分に関する足元の見解

FRBは、インフレ率が着実に低下し、米国の失業率が緩やかに上昇する中で経済の軟着陸を達成するため、9月に0.50%の大幅な利下げを行いました。

利下げは当社の投資ユニバースにおけるリスクと投資機会の双方を示唆します。高金利が経済成長に与える影響は、これまでのところ比較的抑制されてきたものの、金融政策の遅行効果によって、今後数四半期にわたり加速する可能性があると考えて

います。それと同時に、よりディフェンシブかつ金利感応度の高い資産は、ファンダメンタルズの改善および良好な投資家心理から恩恵を受ける立場にあると考えています。

こうした環境を背景に、大半のポートフォリオにわたりディフェンシブなポジションを維持しています。分散された実物資産ポートフォリオは、ディフェンシブなインフラ株式を中心に実物資産株式をわずかにオーバーウェイト、投資適格実物資産デットを選好しつつ実物資産デットをアンダーウェイトしています。



足元の見解

- オーバーウェイト見通し
- ニュートラル見通し
- アンダーウェイト見通し

ウェイト 当社の見解

インフラ株式

- ファンダメンタルズと魅力的なバリュエーションに支えられていると考えているインフラ、特に米国公益事業のディフェンシブな特性を引き続き選好。良好なパフォーマンスを上げているエネルギー・インフラにおいても引き続き投資機会を見出している。

不動産証券

- 不動産市場のシクリカルな特性およびディフェンシブ度の高い実物資産セクターに対する当社の選好を踏まえ、小幅アンダーウェイトを維持。

実物資産デット

- 過去数年間にわたる高金利のため経済が減速すれば、クレジット・スプレッドの拡大が予想されることから、投資適格と格付けの高いハイイールドを選好。

2024年9月30日時点。出所：ブルックフィールドPSG。アンダーウェイト：ベンチマークに対して配分を引き下げる可能性あり。ニュートラル：ベンチマークと同等の配分を検討。オーバーウェイト：ベンチマークに対して配分を引き上げる可能性あり。



グローバル・ インフラ株式

2024年7-9月期、グローバル上場インフラ株式は大幅に上昇しました。FTSE グローバル・コア・インフラストラクチャー50/50インデックスは13.79%上昇し、グローバル株式をアウトパフォームしました。すべてのセクターが上昇するなか、コミュニケーション、送配電、エネルギー・インフラが最も堅調でした。

当社の見通し

足元の投資環境は、世界経済の基盤を成す資産を所有・運営する企業の大幅な収益成長と投資リターンを強く支えるとしています。強力なセクター固有の需要要因、金利が正常化している環境、魅力的なバリュエーションは、同資産クラスが上昇する足場を築いていると思われます。

デジタル化と脱炭素化はHVACインフラにおける投資機会を促進

デジタル化と脱炭素化のメガトレンドは、暖房・換気・空調（HVAC）業界を含むインフラ投資ユニバース全体にわたり多大な投資機会を促進しています。

当社のサステナブル・インフラ投資ユニバースの中で主要な構成要素であるHVAC業界の企業は、居住用ビルや商業用ビルに気候管理ソリューションを提供しており、ビジネス・モデルはサービス・ベースの収益など高クオリティで予見可能性の高いキャッシュフローに重点を置いています。

HVAC企業は、過去数年にわたり能力を急速に拡大し、人工知能（AI）ブームを背景に増大するデータセンターからの冷房需要により良く対応できる強化された効率的なシステムを可能にしてきました。AIを動かすために必要な半導体は、旧式の半導体より多くの熱を発生させるため、誤作動を防止し、全体の運営コストを低下させるハードウェア冷却ソリューションを必要とします。世界全体のデータセンター向けHVAC市場は、2023年の約70億ドルから2027年には約150億ドルに達すると予想されます。

HVAC企業は、リアルタイムのデータを活用してビルのエネルギー使用量やコストを低下させることに資する、より高性能の暖房・換気・空調デジタル技術も取り入れています。これらのシステムは、ビル管理システムと統合するか、ビル管理システムとして機能し、エネルギー消費、メンテナンス業務、入居者の満足と健康を向上させることに役立ちます。

デジタル化と脱炭素化は、今後長年にわたり新規および置換のHVACシステムに対する需要を増大させるため、HVAC業界内の株式には大きな潜在力があると見ています。業界の長期成長見込みは、足元の上場市場のパリュエーションを支えるとともに、プライベート・エクイティ運用会社のなかで同セクターに対する継続的な関心を高めると考えています。

データセンターはHVAC企業に大きな機会を提供

世界全体のデータセンター向けHVAC市場



2024年4月25日時点。出所：キャリア・グローバル・コーポレーション、2024年第1四半期業績発表ウェブキャスト、オムディア。機器のみ。ベンダーによる過去の機器販売に基づきます。

足元の見解

- オーバーウェイト見通し
- ニュートラル見通し
- アンダーウェイト見通し

| ウェイト | セクター | 当社の見解 |
|------|------------|---|
| ● | 公益事業 | 魅力的なトータルリターンの見込みは、強固なファンダメンタルズにより支えられると考えている。産業の成長およびデータインフラに対する需要の急増により高まる電力需要は、継続すると見込まれる。電力需要が平均を上回るペースで増大すると同時に、電力のエネルギー源は変化している。設備投資は送配電網を更新するために拡大する可能性が高く、それが収益を増加させると考えている。公益事業は金利低下による資本コストの改善などマクロ経済のトレンドからも恩恵を受けるとともに、投資家心理を高めている。 |
| ● | 運輸 | 当社のユニバースにおける有料道路の大半は、コロナ禍による交通遮断から回復してきたものの、一部の都心は2020年前の水準にさらに回復する可能性がある。世界全体の旅客交通量は引き続き目覚ましいペースで増加している。空港セクターの中では、総旅客交通量は2024年に95億人に達し、2023年から10%増加すると予想される。鉄道事業部門におけるトレンドは前年比でバラつきがあり、同セクターは過去数年にわたり輸送量が著しく伸び悩んでいる。 |
| ● | 通信 | 新規リースが加速する正確なタイミングは分からないものの、ネットワーク投資に対する需要、金利の低下、収益性に対して高まる関心は、同セクターにとって追い風。 |
| ● | エネルギー・インフラ | 分散されたインフラ・ポートフォリオの一部として、エネルギー・インフラまたはミッドストリームに対しては、産業動向の改善、需要面の追い風、魅力的と見ているミッドストリーム企業の収益および成長特性を踏まえ、強気の見通しを維持している。 |

2024年9月30日時点。出所：ブルックフィールドPSG。アンダーウェイト：ベンチマークに対して配分を引き下げる可能性あり。ニュートラル：ベンチマークと同等の配分を検討。オーバーウェイト：ベンチマークに対して配分を引き上げる可能性あり。



グローバル 不動産証券

2024年7-9月期、グローバル不動産証券は、同資産クラスに対する投資家の意欲が戻ったことから上昇しました。FTSE EPRA Nareit ディベロップト・インデックスは16.33%上昇してグローバル株式をアウトパフォームし、2024年9月末までの年初来のリターンは12.64%となりました。期中、すべての物件タイプのリターンがプラスとなり、リターンが2桁にならなかったのはホテルと住宅のみでした。オフィス株が最も堅調で約30%上昇し、セルフストレージ企業は約23%上昇しました。

当社の見通し

グローバル上場不動産証券は、同資産クラスを後押しする新たな要因が生じていることから、引き続き株式市場全般より魅力的なリスク調整後リターンを生み出す好位置にあると考えています。そうした要因として、金利が正常化している環境、より良好な需給環境、魅力的なバリュエーションなどが挙げられます。



足元の見解

- オーバーウェイト見直し ● ニュートラル見直し ● アンダーウェイト見直し

| ウェイト | 地域／セクター | 当社の見解 |
|------|---------|--|
| ● | 北米 | |
| ● | データセンター | データセンターは引き続き収益成長よりバリュエーションの観点から魅力的。 |
| ● | 小売り | 優良かつニーズに基づくショッピング・センターには投資妙味がある。 |
| ● | オフィス | ファンダメンタルズは、特にセカンダリー市場における物件所有者および研究施設に重点を置く企業の間で、引き続き厳しい傾向にある。同セクターでは銘柄選択およびクオリティの重視が引き続き重要。 |
| ● | アジア太平洋 | |
| ● | 日本 | オフィスおよび産業用セクターの中で優れた投資機会が生じ始めており、旅行・娯楽関連企業に対しては楽観的な見方が後退。 |
| ● | 香港 | 香港と中国で発表された景気刺激策は好材料。引き続き優良と考える小売りおよびオフィス企業の中で主に銘柄固有の要因に基づく投資機会に注目。 |
| ● | 欧州 | |
| ● | 英国 | 複数の個別企業は住宅取引の回復が下支え要因。優良な上場企業の中で、他の市場参加者より資本コストが低下しており、外部成長が見込まれる魅力的な投資機会も見出している。 |

2024年9月30日時点。出所：ブルックフィールドPSG。アンダーウェイト：ベンチマークに対して配分を引き下げる可能性あり。ニュートラル：ベンチマークと同等の配分を検討。オーバーウェイト：ベンチマークに対して配分を引き上げる可能性あり。



実物資産デット

2024年7-9月期、米国債金利が短期ゾーンを中心に全期間にわたり大幅に低下したことから、債券市場は堅調でした。ICE BofA 米国コーポレート・インデックスで見ると投資適格全般は5.72%上昇し、長期債が上昇をけん引しました。

ICE BofA 米国ハイ・イールド・インデックスで見るとハイ・イールド全般のリターンは、5.28%となりました。実物資産投資適格は、デデュレーションが相対的に長いことから市場全般をアウトパフォームした一方、実物資産ハイ・イールドは、電気通信セクターを筆頭にアウトパフォームしました。

当社の見通し

今後数四半期にわたり、投資家と政策当局が緩やかな景気減速および上昇傾向が続く可能性があるデフォルト率（ディストレスト・エクステンジを含む）を消化するにつれて、ハイ・イールドおよびクレジット市場全般においてボラティリティが高まると予想しています。これはインフラなど必要不可欠の資産に裏付けられた魅力的な利回りを追求する投資家に、魅力的な投資機会をもたらす可能性があります。

インフラ・ハイ・イールドの足元のバリュエーションは、ハイ・イールドの中でも特に一定のハイブリッド証券において最も魅力的と見ています。インフラ・ハイ・イールドはハイ・イールド全般より著しく高い利回りを提供する可能性があり、セクター・スペシャリストにとって魅力的な銘柄選択の機会があると考えています。加えて、現在のようにデフォルト率が正常化した局面で予想される信用損失を調整したベースでみると、ハイ・イールドの実物資産セクター、特にBB格銘柄は相対的に魅力があります。

実物資産ハイールド: 「データ・パイプライン」に対する需要が成長を促進

大手クラウド・サービス・プロバイダーによる人工知能（AI）への投資は、ネットワーク・インフラに対する需要を増大させています。必要不可欠なデータ・インフラを提供する実物資産ハイールドの発行体は恩恵を受けると見込まれます。

大手4社（アルファベット、アマゾン・ドット・コム、メタ・プラットフォーム、マイクロソフト）による設備投資は全体で2024年に26%増加すると予想され、そのうちAI投資は40%以上増加すると予想されます¹。このAI投資の一部として、クラウド・サービス・プロバイダーは、電気通信企業による帯域幅容量、具体的には低遅延ファイバーに投資しなければなりません。

例えば、ルーメン・テクノロジーズは8月、光ファイバー容量に対するAI関連需要を背景に新規事業に50億ドルの資金を確保したと発表しました。これには、マイクロソフトのデータセンター間の接続を強化するため、主にルーメンの既存のマイクロソフト向けデータ・インフラの全米ネットワーク上に構築されるカスタム・ネットワークが含まれます。同様に、ベライゾン・コミュニケーションズは9月、全米にわたる光ファイバー網を拡大するため、ファイバー・ネットワーク企業のフロンティア・コミュニケーションズ・ペアレントを買収すると発表しました。アナリストは、今後2年間にわたり同様の案件が増える予想しています²。

電気通信は、歴史的に見て多額の設備投資を必要とするセクターであり、銅線網に置き換わる多大な光ファイバー網の構築を含む、技術的な混乱を背景に、従来型企業の競争上のポジションの変化による構造的な変化を遂げています。一部の電気通信企業のデフォルトを予想しているものの、AI関連投資など複数の追い風から恩恵を受ける好位置にあるセクターの中で、相対価値の魅力が高い優良な発行体を見出すことができると考えています。

大手クラウド・サービス・プロバイダーによる設備投資が増加

主要ハイパースケラーの設備投資（10億ドル）



2024年7月30日時点。出所：S&Pリサーチ。「a」は実績値、「p」は予測値を表わしています。

¹出所：S&Pグローバル・レーティングズ、「The AI Gold Rush Will Use Telecom's Picks and Shovels」、2024年7月30日。

²出所：S&Pグローバル・レーティングズ、「The AI Gold Rush Will Use Telecom's Picks and Shovels」、2024年7月30日。

足元の見解

- オーバーウェイト見通し
- ニュートラル見通し
- アンダーウェイト見通し

| ウェイト | セクター | 当社の見解 |
|------|--------------------|--|
| ● | インフラストラクチャー | |
| ● | 公益事業 | ファンダメンタルズは強固と見ており、事業内容が非常に優良な発行体の中で、安定したシニア無担保債やジュニア劣後証券にリスク調整後ベースで優れた投資機会を見出している。 |
| ● | ミッドストリーム | 短期のファンダメンタルズは力強いと見ており、複数のハイブリッド証券に優れた投資機会を見出している。 |
| ● | データ | 電気通信およびケーブルテレビにおける混乱は、一部の優良資産を裏付けとする発行体の資本構成の中で選別的な投資機会を生み出していると見ており、高いボラティリティの継続および一部の大手優良企業のデフォルトを予想。 |
| ● | 不動産 | |
| ● | 住宅 | 住宅開発以外のセクターにおいて、リスク調整後ベースで相対的に魅力的なバリュエーションを見出している。 |
| ● | サービス | 構造的なマージンの改善、景気に左右されにくい傾向を背景に、地域特化型を中心とした娯楽企業のファンダメンタルズは強固だと考える。引き続き、一部のホテル保有・運営企業に相対的な投資妙味がある。景気減速および関連する消費者の購買力低下は、同セクターにとって深刻なリスクで注視が必要。 |
| ● | リート | ネット・リースや小売、オフィスなど一部サブセクターで、魅力的なボトムアップの投資機会を見出している。 |
| ● | 天然資源 | |
| ● | E&P (探鉱・開発・生産) | バランスシートは近年著しく改善してきたものの、割高なバリュエーションを踏まえてアンダーウェイトの見通しを維持しつつ、ミッドストリーム・インフラを選好。 |
| ● | 金属 & 鉱業、農業 & 林業、化学 | 魅力に欠けると考えているバリュエーションと景気減速が見込まれる中でのファンダメンタルズ悪化を背景に、アンダーウェイトの見通しを維持。 |

2024年9月30日時点。出所：ブルックフィールドPSG。アンダーウェイト：ベンチマークに対して配分を引き下げる可能性あり。ニュートラル：ベンチマークと同等の配分を検討。オーバーウェイト：ベンチマークに対して配分を引き上げる可能性あり。

開示事項および定義

リスクに関する開示事項

すべての投資にはリスクが伴います。投資の価値は時間とともに変動し、投資家においては、利益を得るもしくは投資の一部または全てを損失する可能性があります。インフラ企業は、高い金利コスト、高いレバレッジ、規制コスト、景気減速、過剰能力、競争の激化、燃料の入手可能性の欠如、エネルギー保全政策を含む、様々な要因がその事業に悪影響を与える場合があります。エクイティからデットまでを含む全ての不動産投資には一定のリスクが伴います。債券リスクには、金利リスクや信用リスクが含まれます。通常、金利が上昇すると、それに応じて債券の価値は下落します。クレジットリスクは、債券の発行体が元利金を支払うことができない可能性を指します。実物資産には、不動産証券、インフラ証券、天然資源証券が含まれます。分散が利益を生み出す、または市場下落時に損失を回避する保証はありません。

債券格付けは、債券に付与される等級であり、スタンダード & プアーズ、ムーディーズ、フィッチなど民間の独立格付機関により決定される信用力を示します。これらの格付機関は、債券発行体の財務の健全性、すなわち債券の元利金を期日に返済する能力を評価します。格付けは、最高等級の「AAA」から最低等級の「D」までのアルファベットで表示されます。信用格付けは変更される場合があります。

重要な開示事項

ブルックフィールド・パブリック・セキュリティーズ・グループ・エルエルシー（「PSG」または「当社」）は、ブルックフィールド・アセット・マネジメント・リミテッドおよびブルックフィールド・コーポレーション（「ブルックフィールド」）の完全子会社です。ブルックフィールド・パブリック・セキュリティーズ・グループ・エルエルシー（「PSG」）は、SEC登録投資顧問会社で、カナダの各州・準州において運用会社として登録されており、ブルックフィールド・コーポレーションのパブリック・セキュリティーズ・グループを

代表し、不動産株式、インフラ株式、マルチ戦略実物資産ソリューション、実物資産債券を含むグローバル上場実物資産戦略を提供しています。PSGは、金融機関、公的・私的年金プラン、保険会社、基金・財団、政府系投資ファンド、個人富裕層を含む機関投資家および個人投資家向けに、セパレート・アカウント、登録ファンドおよびオポチュニスティック戦略を運用しています。PSGは、世界有数のオルタナティブ資産運用会社であるブルックフィールド・コーポレーションの間接的な完全子会社です。

当資料に含まれる情報は、投資助言、取引意図もしくは保有銘柄の示唆または投資パフォーマンスの予測ではなく、そのように意図したものではありません。当資料に表示された見解および情報は、いつでも変更される場合があります。ブルックフィールドは、当該見解や情報を更新する責任を負いません/。当該情報は信頼できる情報源から取得したものと見なされますが、ブルックフィールドは、その完全性または正確性を保証しません。当資料は、ブルックフィールドが事業免許を取得していないか、募集、勧誘、購入もしくは売却が不能または違法である地域において、いかなる証券、商品もしくはサービスの売却の募集もしくは勧誘または購入申し込みの勧誘を意図および構成するものではありません（また、いかなる証券、商品もしくはサービスも募集または売却してはなりません）。当資料に表示された意見は、子会社および関連会社を含むブルックフィールド・パブリック・セキュリティーズ・グループ・エルエルシーの現在の意見であり、予告なしに変更となる場合があります。

子会社および関連会社を含むブルックフィールド・パブリック・セキュリティーズ・グループ・エルエルシーは、当該情報の更新または顧客への変更の通知を行う責任を負いません。当資料に提示されたいかなる見通し、予測またはポートフォリオ保有比率も当資料に示された日付時点のものであり、予告なしに変更となる場合があります。

過去の実績は将来の成果を示唆するものではなく、投資の価値およびそれらの投資から生じるインカムは変動する可能性があります。将来のリターンは保証されておらず、元本の損失が生じる場合があります。

将来に関する記述

当資料は、米国連邦証券法令、具体的に米国1934年証券取引所法（その後の改正を含む）第21E条、そしてカナダ証券法令における意義の範囲内における将来の見通しに関する記述を含む情報やそれらに基づく情報が含まれています。将来の見通しに関する記述は、事業戦略や投資戦略もしくは戦略遂行のための措置、競争力、目標、事業の拡大および成長、計画、見込み、将来の成功への言及など、将来の行動、事象または動向に関して、過去の事実の記述以外のすべての記述を含みます。これらの記述は、過去または現在の事実と厳格に関連しないという事実によって特定することができます。「予測」、「推定」、「期待」、「予想」、「想定」、「計画」、「考え」やその他の類似する用語は、これらの将来の見通しに関する記述を特定するために用いられます。将来の見通しに関する記述は、不正確な仮定や既知もしくは未知のリスクおよび不確実性によって影響を受ける可能性があります。そうした要素の多くは、将来の実際の結果や成果を決定する上で重要となります。そのため、いかなる将来の見通しに関する記述についても保証はありません。実際の結果や成果は大きく異なる場合があります。これらの不確実性を踏まえ、これらの将来の見通しに関する記述に不当に依拠すべきではありません。

インデックス・プロバイダーに関する免責事項

当資料内で引用されたインデックスは運用されておらず、投資家がインデックスに直接投資することはできません。インデックスのパフォーマンスは例示のみを目的として記載されており、いかなる投資のパフォーマンスも予測または表示するものでは

ありません。当該比較に関連して、記載されたインデックスとブルックフィールドの戦略、コンポジットまたはファンドへの投資との間には、ボラティリティや規制上および法律上の制約の違いなど重大な要因が存在する可能性があります。ブルックフィールドは、第三者のインデックス・スポンサーからインデックスに関するすべてのデータを取得しており、当該データは正確と考えていますが、その正確性に関していかなる表明も行うものではありません。インデックスは運用されておらず、投資家が直接購入することはできません。

ブルックフィールド・パブリック・セキュリティーズ・グループ・エルエルシーは、当資料で参照されたインデックスを所有しておらず、その構築または日々の管理に関与していません。当資料に記載されたインデックスの情報は、お客様への情報提供のみを目的としており、ブルックフィールドの運用商品が同様の結果を達成すると暗示または予測するものではありません。当該情報は予告なく変更されることがあります。当資料で参照されたインデックスは、いかなる報酬、費用、販売手数料または税金も控除していません。インデックスに直接投資することはできません。インデックス・スポンサーは、インデックスおよび関連データの「現状のまま」での使用を許可しており、これに関していかなる保証も行わず、インデックスまたはインデックスに含まれる、関連する、もしくはそこから派生するデータの適合性や品質、正確性、適時性、完全性を保証せず、それらに関連して一切の責任を負いません。インデックス・スポンサーは、直接的、間接的、特別、偶発的、懲罰的、結果的またはその他の損害（利益の損失を含む）について一切の責任を負いません。インデックス・スポンサーは、ブルックフィールドまたはそのいかなる運用商品やサービスの後援、是認または推奨も行うものではありません。別段の注記がない限り、すべてのインデックスはトータル・リターン・インデックスです。

実物資産四半期レポート

パブリック・セキュリティーズ・グループ

インデックスの定義

アレリアン・ミッドストリーム・エナジー・インデックスは、幅広い北米エネルギー・インフラ企業の複合インデックスです。上限付き浮動株調整後時価総額加重インデックスは、キャッシュフローの過半数がエネルギー・コモディティを含むミッドストリーム活動から生じている企業で構成され、価格リターン・ベース（AMNA）とトータルリターン・ベース（AMNAX）でリアルタイムに提供されています。

アレリアン MLP インデックスは、エネルギー・インフラ・マスター・リミテッド・パートナーシップ（MLPs）の主要な測定指標です。上限付き浮動株調整後時価総額加重インデックスは、キャッシュフローの過半数がエネルギー・コモディティを含むミッドストリーム活動から生じている企業で構成され、価格リターン・ベース（AMZ）とトータルリターン・ベース（AMZX）でリアルタイムに提供されています。

ブルームバーグ・グローバル総合インデックスは、グローバル債券を含む、主要な国内市場およびユーロボンド市場で発行された投資適格公募債券のパフォーマンスを追跡しています。

ダウ・ジョーンズ・ブルックフィールド・グローバル・インフラストラクチャー・インデックスは、年間キャッシュフローの少なくとも70%がインフラ資産の保有と運営から生じているインフラ企業で構成されています。ブルックフィールドは、ブルックフィールド・ブランドの指数の日々の管理において直接的な役割を果たしていません。

FTSE EPRA Nareit ディベロップメント不動産インデックスは、運

用されていない時価総額加重トータルリターン・インデックスであり、先進国の上場エクイティ・リートおよび上場不動産企業で構成されています。

FTSEグローバル・コア・インフラストラクチャー50/50インデックスは、市場参加者に業界の定義によるインフラの解釈をもたらし、一定のインフラ・サブセクターへのエクスポージャーを調整しています。セクター別構成比率は、半年ごとのレビューの一環として、広範な3産業セクターについて、公益事業50%、7.5%を上限とする道路／鉄道を含む運輸30%、パイプライン、衛星、電気通信塔を含むその他セクター20%の比率に従って調整されます。各グループ内の個別銘柄の比率は、投資可能時価総額の割合で調整されます。

ICE BofA 優先証券REIT 7%コンストレインド・インデックスは、不動産投資信託が発行したすべての優先証券を含むBofA固定金利優先証券インデックスのサブセットです。ICE BofA固定金利優先証券インデックスは、米国国内市場で発行された固定金利米ドル建て優先証券のパフォーマンスを追跡しています。ICE BofA リアル・アセット米ドル・ハイ・イールド & コーポレート・カスタム・インデックスは、ブルックフィールドの実物資産ユニバースにおける株式セクターに対応するICE BofA 米国ハイ・イールド・インデックス（70%）とICE BofA 米国コーポレート・インデックス（30%）のセクターを合成したカスタム・インデックスです。この実物資産関連セクターには、ケーブルテレビ、インフラ・サービス、石油・ガス T&D、電気通信、運輸、公益事業、農業、林業、基本素材、エネルギー探鉱・開発・生産、金属 & 鋳業、不動産、不動産所有 & 開発、

リートが含まれます。ICE BofA 米国ハイ・イールド・インデックスは、米国国内市場で公募発行された米ドル建て投資適格未満社債のパフォーマンスを追跡しています。ICE BofA 米国コーポレート・インデックスは、米国国内市場で公募発行された米ドル建て投資適格社債のパフォーマンスを追跡しています。

ICE BofA リアル・アセット米ドル投資適格カスタム・インデックスは、ブルックフィールドの実物資産ユニバースにおける株式セクターに対応するICE BofA 米国コーポレート・インデックスのセクターのパフォーマンスを追跡するカスタム・インデックスです。この実物資産関連セクターには、ケーブルテレビ、インフラ・サービス、石油・ガス T&D、電気通信、運輸、公益事業、農業、林業、基本素材、エネルギー探鉱・開発・生産、金属 & 鋳業、不動産、不動産所有 & 開発、リートが含まれます。ICE BofA リアル・アセット米ドル・ハイ・イールド・カスタム・インデックスは、ブルックフィールドの実物資産ユニバースにおける株式セクターに対応するICE BofA 米国ハイ・イールド・インデックスのセクターのパフォーマンスを追跡するカスタム・インデックスです。この実物資産関連セクターには、ケーブルテレビ、インフラ・サービス、石油・ガス T&D、電気通信、運輸、公益事業、農業、林業、基本素材、エネルギー探鉱・開発・生産、金属 & 鋳業、不動産、不動産所有 & 開発、リートが含まれます。

MSCI 米国REITインデックスは、エクイティ不動産投資信託（REIT）で構成される浮動株調整後時価総額加重インデックスです。153銘柄（大型・中型・小型株）で構成され

る同インデックスは、米国REITユニバースの約99%を代表しています。

MSCI ワールド・インデックスは、先進国の株式市場のパフォーマンスを測定するように設計された、浮動株調整後時価総額加重インデックスです。

S&P500インデックスは、幅広く保有された大型株米国企業を代表する500社の株価指数です。

© 2024 Brookfield. All Rights Reserved.

Brookfield

その他のPSGインサイト

<https://www.brookfieldoaktree.com/ja/insights>
